

「水の帝」の商品取扱い説明

1. 金魚に使用する場合

【添加量】

- ① 初期投入量池の水量500Lに対して初回0.03%の150ccを投入
- ② 2回目投入池の水量500Lに対して3日後に2回目0.02%100ccを投入
- ③ 3回目投入池の水量500Lに対して3日後に3回目0.01%50ccを投入
- ④ ランニング投入池の水量500Lに対して3日後毎に4回目以降0.01%50ccを投入

冬眠時は池の水量500Lに対して1カ月に4回7日おきに50ccを追加投入する。

【水変え頻度】

基本は全体池の全量取り換えは禁止する。

夏場1週間に1回水の傷みが激しい場所でも全量の交換はせず全体の3分の1量～3分の2量のさら水を交換する。

冬場ほとんど水替えはしないでもいいが1カ月に1回～2回3分の1量の交換は可
その他の時期1カ月に2回～3回水が傷んだ時だけ3分の1量を交換する。

【品評会后や魚を移動した時】

病気の予防法として200Lプラ池に「水の帝」0.1%200ccを入れて魚を1か月間飼育する。

追加投入量は3日おきに0.3%60ccを投入する。

水替えは行わない。水が傷んだと感じた時でも先ほどのように半分量の交換だけにする。

基本的には品評会の後えら球菌やヘルペス菌を魚が体内にもらってきてこの
予防池に入ればバイオ菌が優占主となりえら球菌やヘルペス菌の増殖を防ぐ
ために魚が病気になりにくく生存率が高まる。

ただし生存率は諸条件により異なるので100%生存する保証はできません。

※らんちゅう武道館からのコメント

■薬品との併用は避けてください。(バイオ菌が死滅するみたいです)

■初めての液体バイオの投入は新水からスタートした方が良い感じです。

■塩の投入は新水で0.3%の塩分濃度は可能です。(古くなった水は不可)

初めてバイオを使用される方へ・・・

■病気(元気がない)や餌食いの悪い金魚は、良い状態にしてから使用してください。

■今までの飼育方法にプラス、液体バイオを投入と言う感じで行くと使いやすいです。

○保管場所は直射日光をさけた冷暗室

○保管場所温度は5℃～60℃

【応急処置】

皮膚に付着：多量の水で洗浄。そして十分にセッケン水で皮膚を洗い物質を洗い流す。

眼に入った場合：すぐに、多量の清浄な水で洗眼し、専門医の診断を受ける。

吸入した場合：吸引ガスを吐き出し、新鮮な空気のところへ移動する。気分の悪い場合は直ちに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：つばを出して吐き出し、飲料水を大量に飲ませる。直ちに医師の手当を受ける。